

1. はじめに

兵庫県では、阪神・淡路大震災から10年を迎えるのを機に、復興10年総括検証・提言事業を推進している。その一環として、震災復興の取り組みの成果や課題等について県民の意識等を把握するため、兵庫県下の被災地である淡路、阪神北、阪神南、神戸、明石・三木の5地域において、地域別および総括ワークショップを2004年6月から7月にかけて実施した。

今回の地域別ワークショップでは、「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと」および「将来生かしていくべきこと」を10人前後の班で話し合い、それぞれを地域ごとにまとめ、重要だと思う項目に得点をつけるという順位付け作業を行った。その後、地域の代表者による総括ワークショップで、全体のまとめとなる作業を行った。

地域別ワークショップでは5地域で延べ228名、総括ワークショップでは地域の代表者51名の参加があり、「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと」では761件、「将来生かしていくべきこと」では611件の意見が出るなど、活発な話し合いが行われた。

ここに、その概要を報告する。